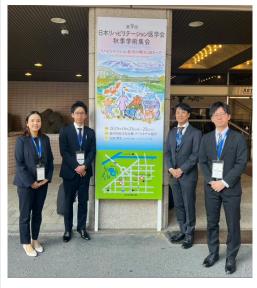
星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(学会発表·講演講師版)

報告日 20	報告日 2025年10月29日													
氏名 平	岡大	(輝				指導	教員名	Z	越智	亮				
掲載内容(⊠学会	会研究発	表	□講	演講師	fi	□その)他)					
学会等開催日	l:	2025	年	10	月	23	日	\sim	2025	年	10	月	25	日
学会等名称: 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会														
学会等開催場	- 計	北海道旭川市												
国名,都市名,会場		旭川市民文化会館・アートホテル旭川												
研究・講演タイ	講演タイトル: 高回転ペダリング運動が筋機能と血糖値に及ぼす影響: 健常者への前後比較記											前後比較試験		
		による予備的研究												
発表者名(全員記	己載):	: 平岡大輝, 越智亮												
		※発表者は	一番前	こ記入し	,自分に	下線								
研究概要		自転車	エルこ	ゴメー	ターを	使用	した高	5強度	度レジス	タン	ストレ	ノーニ	ニング	として,高
(150 字程度	(1)	回転ペク	ダリン	ノグの	単回道	動前	後の筋	まおし	よび代謝	応答	を高担	氐抗~	ペダリ、	ングと比較
		し,糖原	永病 鳥	きせん	の実用	性の	検証を	2目自	りとした	パイ	ロット	下研究	宅である	る. 結果,
		高回転~	ペダ!	リング	は少な	い外	的仕事	量で	で高抵抗	ペダ	リンク	ブと同	司等の角	筋腫脹と筋
		疲労, [血糖隊	锋下作	用を認	思めた.								
感想その他		本研究の	の結り	見より	,高回	転べ	ダリン	/ グカ	が糖尿病	患者	への通	適応に	こ有用	となる可能
アピール欄		性を示し	した.	学会	発表を	通じ	て, オ	こトに	ノーニン	グを	患者に	こ適点	なする[祭の,患者
(100 字程度	<u>(</u>)	の選定	ま準 る	ニリス	ク管理	間に関	する意	意見を	といただ	き,	今後の	つ研究	とへの	凡化を検討
		していく	<.											
写真添付欄					Real Street				- 13	100	1190	19		

写真添付欄2枚以內





星城大学大学院健康支援学研究科研究成果報告書(学会発表・講演講師版)

星城大学大学院健康		科研	完成果:	報告書	小	全会発	表・講	演講的	币版)			
報告日 2025/10				TP:/*	÷ +//. 🖂	h	+4 /m 					
	2 (研究員)		: w-> ==== 67		教員		越智亮					
掲載内容(図学:					ロモ	•)	F		п		
学会等開催日:		F 10	月 当 会	4	日	\sim	2025	年	10	月	5	F
学会等名称: 学会等開催場所:	第 12 回転		子云									
国名,都市名,会場名	G A D CA	十 四										
研究・講演タイトル:	後方への軸	· 	テッフ	゚にお	ける-	一歩	長の制糸	1が下	肢筋 液	舌動 旨	量に与	 える影響
		- 1, 1, 1, 1			, ,	- •		• • •	70 47374 11			, = 3,7, =
発表者名(全員記載):	判治真也,	高橋	 樹,石	i畑遥	菜, ⁻	古久村	艮祐大,	越智	亮			
研究概要	易転倒高的	静者は,	一歩長	が短	<, ⋅	体幹力	がより後	傾し	た姿勢	勢で着	事地す	るため、転
(150 字程度)	倒に至りる	やすい.	一歩長	を制	限し	た後え	方 ステッ	プ動	作の-	下肢角	5活動	を調査し
	た. 虚弱語	島齢者の	後方ス	テッ	プを	再現〕	した 1 歩	長の	30%	条件	におい	て、着地姿
	勢の安定性	勢の安定性が減少し、膝伸展筋のより大きな筋活動が観察された.膝伸展筋力										
	を維持・均	曽強する	ことが	重要	であ	るこ	とが示唆	され	た.			
感想その他	今後はn	数を増や	して,	研究	を継	続し	ていきた	こいと	思いる	ます.		
アピール欄												
(100 字程度)												
	· Van	Total Control										
写真添付欄			•									
2 枚以内												
		00	転 日									
		2002年年 10月4日(土) 5日(田) 10日 日本	本転	1	7							
	A AL	10 7 2 4 7	乗を 倒	16								
		Gメッセ群馬 上内哲男 Jeway 10	第予									
	15	月4日(第12回 学術集会									
		土)·5日 土)·5日	術会	T ₂	TT							
		四(田)	会									
				1	41							

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(論文掲載版)

報告日 2025年	8月27日												
氏名 野田 篤	志 指導教員名 越智 亮												
掲載内容(凶研究	究論文採択 □総説論文掲載 □その他紀要など)												
論文採択・掲載日:	2025 年 8 月 25 日												
論文掲載雑誌名	Journal of Exercise Rehabilitation. 21(4); 210-218, 2025.												
巻・号・年													
doi	https://doi.org/10.12965/jer.2550446.223												
タイトル:	Effects of modified sit-to-stand training on load asymmetry in patients with												
	hip fracture: a pilot quasi-randomized controlled trial												
発表者名(全員記載):	野田 篤志, 越智 亮												
要旨	本研究は、座面を高く患側足部を後方に位置させた改良型起立トレーニングが大												
(250 字程度)	腿骨近位部骨折患者の起立時と歩行時の荷重非対称性を改善させるかを検証し												
	た. 対象は改良型起立トレーニングを実施する改良型起立群 12 名と患側と健側												
	足部を同位置とした起立トレーニングを行う通常起立群 10 名とした. 介入期間												
	は両群ともに1日15分,2週間とした.改良型起立群は通常起立群と比べ,起立												
	時の患側下肢荷重量,歩行時の患側下肢立脚時間,患側膝関節伸展筋力およびバ												
	ランス機能の改善を認めた. 改良型起立トレーニングは, 大腿骨近位部骨折患者												
	の起立時や歩行時における患側下肢の荷重不全,左右下肢の荷重非対称性を,2												
	週間という比較的短い期間で改善させる効果的な介入である可能性を示唆して												
	いる.												

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(論文掲載版)

報告日 令和	7年7月3日
氏名 大井	慶太
掲載内容(『	研究論文採択 口総説論文掲載 口その他紀要など)
論文採択·掲載	日: 2025 年 6 月 20 日
論文掲載雑誌	理学療法科学 40・3・2025
巻・号・年	
doi	https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rika/list/-char/ja
タイトル:	寄り添いロボット®の使用が最大重心移動距離と姿勢安定度評価指標,主観的安
	定感に与える影響
発表者名(全員記述): <u>大井 慶太</u> , 佐藤 隼, 山田 和政
要旨	寄り添いロボット®の使用が,最大重心移動距離と主観的安定感に与える影響
(250 字程度)	について検討することを目的とした. 当院入院・外来患者 15 名を対象に, 重心
	動揺計を用いて最大重心移動距離,姿勢安定度評価指標 (IPS), 下肢荷重率,
	対象者の主観的安定感について、寄り添いロボット [®] 未使用時と使用時で計測
	し、それぞれ比較し検証した. 寄り添いロボット®使用時で、最大重心移動距離
	(右と後方), IPS, 下肢荷重率は有意に向上したことから, 寄り添いロボット®
	の使用は、安定性限界域に近い状態までバランス負荷を課すのに有用であるこ
	とが考えられた.

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(学会発表・講演講師版)

生燃八十八	一个的使冰	(人)反于则	ノレイオ	71)) [1 (十五	九1	八叶	(央) 中	אוויווד)	'			
報告日	2025年	6月6日	月6日												
氏名	村上まり	七 呂				指導	教員名	į	越智	亮					
掲載内容	(図学:	会研究発	表	□講演	演講師	ŦĪ	□その化	<u>h</u>)						
学会等開	催日:	2025	年	5	月	29	日 ~	_	2025	年	5	月	31	日	
学会等名	称:	World Physiotherapy Congress 2025													
学会等開	催場所:	易所: 東京都 世田谷区													
国名,都市名	,会場名	東京国際	東京国際フォーラム												
研究•講演	タイトル:	Effect of standing exercise combined with local vibration stimuli on													
		hypertrophy for disused triceps surae muscle in older adults													
発表者名(全	全員記載): <u>村上 ま比呂</u> ,越智 亮,林 尊弘														
研究概要		地域包括	舌ケブ	ア病棟に	こ入院	党中の	高齢廃用	患	者を対	け象に	. 振	動刺	激(」	以下;LV)を	
(150字)	程度)	適用し,	4	間間のゴ	立位保	持訓網	東を行っ	た	. 結果	:, L\	<i>7 を</i> 近	適用し	~た群	において 4 追	
		間後の	下腿三	三頭筋の	の筋厚	でで	互作用を	- 認	以め, 堆	自大を	認め	た.	一方~	で,LV を適月	
		した群る	として	こいない	ハ群に	こおい	て、日常	生	活動作	能力	に有	意差	はなく	く,両群とも	
		に成績が	が改善	善した.											
感想その	他	国境を起	或えた	と世界の	の理学	华療法	士の研究	記報	告を学	きぶこ	とが	でき	て,	とても貴重な	
アピール	欄	時間と	なりま	ました.	苦手	とな英	語での排	比戦	でした	こが,	世界	中の	理学》	療法士に刺激	
(100字	程度)	をもらい	١, ٥	さらなる	る研究	ピ への	モチベー	ーシ	ョンを	たあけ	ぎるこ	とが	できる	ました.	
写真添付	欄				36-181										
2枚以内				Effect of standing exerci hypertrophy for disu	ise combined with luca used triceps surue must calcum, rente colors	al vibration stimuli on cle in older adults moves (1, 140)	A STUDY OF DEFENDE ON THE PERSON OF T				Wo	rldi	Phys	io2025	





星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(学会発表・講演講師版)

報告日	2025年	6月4日											
氏名	野田篤	志				指導	教員名	越智 勇	き				
掲載内容	(図学:	会研究発	表	□講	演講師	Ŧi	□その他) *\\`	ド れかに	チェ	ック		
学会等開	催日:	2025	年	5	月	29	日 ~	2025	年	5	月	31	日
学会等名	称: World Physiotherapy Congress 2025												
学会等開	催場所:	場所: 東京国際フォーラム											
国名,都市名,	会場名												
研究•講演	タイトル:	Effect of modified sit-to-stand training on reducing lower limb load asymmetry											
		in patients with hip fracture: A quasi-randomized controlled trial											al
発表者名(全員記載): 野田 篤志, 越智 亮													
研究概要		本研究は、座面を高く患側足部を後方に位置させた改良型起立トレーニン											レーニングが
(150 字程	患者の	非対称性	を改善さ	せる	かを	:検証	した.	2週間の改良					
型起立トレーニングは							立トレージ	ニングと	比べ	, 起	己立時	の患値	側下肢荷重量
		と荷重	非対和	<u></u> 称性,	患側閣	関節	伸展筋力	およびバ	バラン	ス機	能を	改善	させた.
感想その	他	本発表	を通り	して,	改良型	型起立	トレーニ	ングに対	けする	本研	一究の	限界	点や臨床にお
アピール	欄	ける実績	用性に	こつい	て多く	の意	見を頂ける	た. 今後	は本	研究	記結果	:をま。	とめ, 論文執
(100字)	程度)	筆に尽力	カレ	ていき	たい.								
写真添付	欄		1	XXXX			, '					B5-01	5 E
2 枚以内			Company		#	Work	dPhysio20	25		Healing	on reducing laws	wet at most find as to espend a Tino load asprementy as past a train and amount of the Amount of the Common of the	Federace of properties in the control of the contro
		0	VA	V/ -			MI			222	FORES		The second secon
					A					-	Production of the last of the	de de	The second secon
					A			THE STATE OF THE S		G Bloom	Will the state of		
					4			1			100 mm 10		
			1			1		41					
											1		
											N		

星城大学大学院健康支援学研究科研究成果報告書(学会発表・講演講師版)

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書(学会発表・講演講師版)														
報告日 2025 年														
氏名 長谷川	雄也		指導教	始 員名	越智	亮								
掲載内容(図学会	会研究発表	□講演講館	币]その他)									
学会等開催日:	2025 年	5 月	29	日 ~	2025	年	5	月	31	日				
学会等名称:	World Phys	siotherapy (Congres	s 2025										
学会等開催場所:	東京都千代	田区												
国名,都市名,会場名	東京国際フ	東京国際フォーラム												
研究・講演タイトル:	変形性膝関節症患者における大腿四頭筋の筋厚・筋輝度と人工膝関節全置換術後の													
	身体機能との関係													
発表者名(全員記載):	者名(全員記載): 長谷川 雄也, 林 尊弘, 越智 亮, 加古 誠人, 中原 広志, 鈴木 篤明,													
桑原 浩彰,濱田 恭,酒井 忠博														
研究概要	本研究は、変形性膝関節症と診断され、人工膝関節全置換術施行予定の患者を対													
(150 字程度)	象に、術前時における超音波画像診断装置を用いた骨格筋評価と術後3ヶ月時点													
	の身体機能	との関連につ	ついて検	討を行っ	った. 結	果,	大腿	四頭筋	の中で	でも内側広筋				
	の筋厚は身	体機能との関	連を認	以め, 筋炭	軍度にお	いて	は大胆	退四頭	筋の口	中でも外側広				
	筋で身体機	能との間に関	連を認	ぬた.										
感想その他	初の国際学	学会への参加	で、海グ	外の方々	の発表を	と聴言	冓する	中で、	各分	野の世界の理				
アピール欄	学療法のト	レンドについ	って学ぶ	ぶことがつ	できた.									
(100 字程度)	しかし,芽	英語でのディ	スカッ	ションは	まだまた	ご不-	十分で	あり,	研究	活動に加え,				
	そのような	力も身につい	ナていき	たいと原	以じた.									
写真添付欄	T	4												
2枚以内	The second secon	The second secon		G6-2										

星城大学大学院健康	ま支援学研究科 研究成果報告書(学会発表・講演講師版)												
報告日 2025年	4月14日(月)												
氏名 内屋 糸	指導教員名 林 浩之												
掲載内容(図学会	会研究発表 □講演講師 □その他)※いずれかにチェック												
学会等開催日:	2025 年 4 月 11 日~ 2025 年 4 月 12 日												
学会等名称:	第 37 回日本ハンドセラピィ学会学術集会												
学会等開催場所: パシフィコ横浜ノース (神奈川県横浜市)													
国名,都市名,会場名													
研究・講演タイトル:	レ: 術後早期から漸次静的装具を適応した肘関節周囲骨折患者における術後 12 週												
	降の拘縮改善効果												
発表者名(全員記載):	(全員記載): <u>内屋純</u> 1)2), 林浩之1)3), 桝田臣弘2), 棚橋宏行4), 横井達夫4)												
	1) 星城大学大学院健康支援学研究科 2) 岐阜県総合医療センター中央リハビリテーション部												
	3) 星城大学リハビリテーション学部 4) 岐阜県総合医療センター整形外科												
研究概要	術後早期から漸次静的装具療法を適用した肘関節周囲骨折患者における術後 12												
(150 字程度)	週以降の肘関節角度を後方視的に調査し、漸次静的装具の拘縮改善としての可												
	能性を探索した. その結果, 術後 12 週以降は肘関節角度の改善の少なく, 装具												
	の使用終了時に機能的角度を獲得した割合も低かった. 拘縮改善を目的とした												
	漸次静的装具療法は術後 12 週以降の肘関節角度に変化をもたらさない可能性が												
	aso.												
感想その他	本発表を通じ、肘関節周囲骨折患者に対して術後早期から漸次静的装具を適応												
アピール欄	した場合,術後 12 週以降は肘関節角度に変化をもたらさない可能性が示唆され												
(100 字程度)	た. 今回は比較対象がなく、漸次静的装具の特性が否かは確認できていない.												
	今後は大学院での研究である動的装具群や装具未使用群などの対照群を設け,												
	検討することに繋げていく.												
写真添付欄													
2 枚以内													
	競社団法人日本ハンドセラビィ学会 第37回												
	。日本ハンドセラビィ学会。 学術集会												
	The Lith Annual Meeting of Japan Bailed Therapy Society												



星城大学大学院健康支援学研究科研究成果報告書(学会発表・講演講師版)

星城大学大学	完健康	支援字册	光科	研究	比成果	報告書	(字	- 発	表・講	寅講	帥版)	1			
報告日 20	25年	2月3日													
氏名 村.	上ま比	:呂				指導	教員名								
掲載内容(⊠学会	会研究発表	表	□講	演講師	fi [コその	他)						
学会等開催日	:	2025	年	2	月	1	日	\sim	2025	年	2	月	2	日	
学会等名称:		日本物理	里療法	合同:	学術大	会 20	25								
学会等開催場	脐:	愛知県	名古	屋市											
国名,都市名,会場	岩名	名古屋市	名古屋市立大学 田辺通りキャンパス												
研究・講演タイ	トル:	下腿三頭筋廃用性筋萎縮筋に対する局所振動刺激を併用した立位保持運動の効													
		果~	果 ~準ランダム化比較試験~												
発表者名(全員記	発表者名(全員記載): <u>村上 ま比呂</u> , 越智 亮, 林 尊弘, 篠崎 裕也, 服部 菜恵														
研究概要		地域包括	舌ケア	病棟	に入院	至中の 語	事齢廃	用点	患者を対	像に	., 下	腿三	頭筋	こ局所振動刺	
(150 字程度	<u>;</u>)	激(以	下;LV	7) を	適用し	しなが	ら立位	保	持訓練る	を行う	5 4 边	週間 ∅	り介入	研究を行っ	
		た. 立位保持のみの群と比べ, LV を適用した群のみ, 4 週間後に 8 カ所の B											8カ所の腓腹		
													-	増加率に有意	
														「能性が高いと	
										LV	適用	群と	非適月	月群ともに改善	
		したが,													
感想その他														生の介入研究	
アピール欄										-				などが異なっ	
(100 字程度	()							_		-			•	すぐに臨床で	
														方法を検討す	
		ることで	で, よ	り振	動刺湲	で用い	いた埋	字》	寮 医の発	腰に	つな	かる	と考え	えられた.	
のまが./ L HB															
写真添付欄			STATE OF THE PARTY				7								
2 枚以内				合同	×物理療法 同学術大会 2025							特に主要要の数予能三級医の数上所	1 〜廃用症候 である下側三球形の者し はカロ日常生は主義の動作 球の第2ヶ年は毎男をとる ける鹿用患者のほとんども	- い程高能を認める 1987年 R. 416.7030 ・地方とび係している 1990年 P. 344.1330	
				2 H	2月1日は・2日日 京 外 古古屋市立大学 図連キャンパス 大学 野原一平 ウエステザンの時間を必ずが 本記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					A	演者		が様子 などと関係する所質的製剤 関連直動脈の質問大と立体質 を予選率の扱い連動		